

ストリングの基礎知識



今回解説してくれるのは



村山友一

(テニスサポートセンター渋谷店)

テニスギアをこよなく愛するが故に、ラケットは自分のテニスの歴史として捨てられず大切に保存！ぜひ、お店でラケットトークしませんか？

今号のテーマ

知っているようで、あまり知られていないストリングのこと。このコーナーでは、読者から寄せられた素朴な疑問を、プロのストリンガーに答えてもらいました。皆さんのテニスライフ向上に役立ててください

古いナチュラルガットとストリングパターンの違いについて

Q 10年以上前に購入したナチュラルガットがあります。これから張っても問題ありませんか？
(テニス歴20年/50代男性)

保管状態次第ではパフォーマンス低下

ナチュラルガットは外部からの影響を受けやすい商品です。特に水気には弱く、ナチュラルガットを張ったラケットを保護用のビニールに入れて、お客様にお渡しするシヨップもあります。

そのため、まずは製品パッケージを開けていない状態で保存されているのが、条件の1つになるかと思えます。その状態であれば、問題なく張れる可能です。



買ってからしばらく使用しない場合は、絶対にパッケージを開けないようにしましょう

性はありますが、最終的にはナチュラルガットの内部が、どの程度劣化しているのが鍵となるので、実際に張っていただきたい使用してみないと判断できません。

また、もし張り上げている途中で切れてしまうと、張り工賃や製品の補償が効かない場合もあるので、お近くの信頼できるテニスシヨップへご相談の上で判断してください。

経験上は、無事に張り上げられた場合でも、質感は通常のナチュラルガットと異なるケースが見受けられます。

Q ストリングの目が細かいラケットと粗いラケットでは、使用感がどんな違いが生まれますか？
(テニス歴2年/中男子)

ラケットからのアシストに影響する

目が細かいというのは、縦横のストリング本数の合計が多いパターンのことで、「18×20」などが一般的です。

コントロール性能を重視するものが多く、基本的には中上級者向けに開発されています。ストリングとボールの接地面積が多いので、面の安定性が増し、プレーヤーの力がロスなくボールに伝わり打球感も感じやすい



粗いパターンは「16×19」が一般的。前者が縦糸の本数で、後者が横糸の本数だ

です。その反面、ラケットからのアシストは少ないので、プレーヤーの実力がボールの勢いや回転量にそのまま反映されます。続いて目が粗いラケットというのは縦横のストリング本数が少ないパターンなので、極端な場合は「16×15」といったパターンもあります。

パワー、スピンを重視しているモデルが多く、黄金スペックと呼ばれる幅広い層の方にマッチするラケットは、ほとんど粗い目のパターンを採用しています。目の細かいラケットとは対照的にストリングとボールの接地面積が少ないため、打球時にストリングがたわむことで、ラケットからのアシストが受けられます。

基本的にはプレーヤーのレベルを問わず、ボールの勢い、回転量を確保しやすいです。しかし、微妙な飛距離をつかむのが難しく、左右のブレなどが抑えにくい時や、打球感を感じにくい

ストリング都市伝説

ナチュラルガットの素材は今も昔も牛の腸のみで作られている

現在は、牛の腸が一般的になりましたが、昔は羊の腸や鯨の髭も使用されていました。ナチュラルガットが「シープ」と呼ばれることがあるのは、羊の腸だった時代の名残です。



単張り約12メートルのナチュラルガットを作るのに、牛2頭分の腸が必要になるといふ

い場合もあります。以上がそれぞれの基本的な特徴となります。あくまでもラケットの基本性能になるので、最終的にはストリングの種類、スイングスピード、グリップの握り方の種類などにも影響されます。もし、使うラケットに悩まれているのであれば、自己評価に加え、コーチや信頼できるテニスシヨップの方などの意見を参考にしてください。

募集中

ストリングに関する質問を募集しています。年齢、性別、テニス歴を記入し、〒113-8448 東京都文京区本郷2-33-5 日本スポーツ企画出版社スマッシュ編集部「ストリング基礎知識」まで。質問が採用された方には、テニスサポートセンターより、ストリングをプレゼントします。